

# 日本の企業における生成 AI 利用状況

## Gemini Deep Research

### はじめに

生成 AI は、近年急速に発展を遂げている AI 技術であり、テキスト、画像、音声、動画など、様々なコンテンツを生成することができます。<sup>1</sup> ビジネスシーンにおいても、業務効率化、新たなサービス創出、意思決定の迅速化、そして顧客体験の向上など、様々な可能性を秘めていることから、多くの企業がその導入を検討しています。<sup>2</sup>

本レポートでは、日本の企業における生成 AI の利用状況について、最新の調査結果に基づき現状を分析します。

### 背景

生成 AI は、従来の AI 技術とは異なり、大量のデータから学習することで、人間のように新しいコンテンツを生成することができます。この技術は、ビジネスシーンにおいて、以下のような様々な用途で活用が期待されています。

- **業務効率化:** 繰り返し作業の自動化、データ分析の効率化、報告書作成の自動化など
- **新たなサービス創出:** 新しいコンテンツの生成、顧客対応の自動化、パーソナライズされたサービスの提供など
- **意思決定の支援:** データ分析に基づいた予測、リスク評価、最適な選択肢の提案など
- **顧客体験の向上:** 顧客一人ひとりに合わせたサービス提供、問い合わせ対応の自動化など

このような可能性を秘めていることから、生成 AI は、多くの企業にとって、競争力を強化し、ビジネスを成長させるための重要なツールとなると考えられています。

### 調査結果の概要

#### 生成 AI の利用率

日本企業における生成 AI の利用率は、調査主体や対象企業、調査時期によって大きく異なります。

- 帝国データバンクの調査（2024年7月時点）によると、日本企業の**\*\*17.3%\*\***が生成 AI を活用しています。<sup>3</sup>
- 総務省の調査（2023年時点）では、日本企業の生成 AI 利用率は**\*\*9.1%\*\***と、他国と比較して低い水準にとどまっています。<sup>4</sup>
- PwC コンサルティングの調査（2023年秋時点）では、日本企業の生成 AI 利用経験は**\*\*73%\*\***に達しています。<sup>5</sup>
- 株式会社リブ・コンサルティングの調査によると、年間売上高 1,000 億円以上の企業において、生成 AI を日常的に利用している割合は **42%**となっています。<sup>6</sup> 一方で、中堅・中小

企業における生成 AI の日常利用は 2 割以下にとどまっています。<sup>7</sup>

これらの調査結果の違いは、調査対象や質問内容、調査時期などが異なることに起因すると考えられます。例えば、帝国データバンクの調査は、企業全体を対象としたものですが、リブ・コンサルティングの調査は大企業の課長職以上を対象としたものです。また、PwC コンサルティングの調査では、「生成 AI 利用経験」を尋ねていますが、他の調査では「生成 AI 活用」を尋ねているため、質問の範囲が異なっています。

## 生成 AI の活用状況

生成 AI は、様々な業務で活用されていますが、特に「メールや議事録、資料作成等の補助」での利用が進んでおり、\*\*69.5%\*\*の企業が利用しています。<sup>8</sup> これは、生成 AI が文章作成や要約に優れているため、これらの業務の効率化に役立つと期待されているためと考えられます。

- 生成 AI の活用が想定される業務の中で、最も利用率が高いのは「メールや議事録、資料作成等の補助」で、\*\*69.5%\*\*の企業が利用しています。<sup>8</sup>
- 次に、「社内向けヘルプデスク機能」が **65.4%**、「顧客対応の自動化」が\*\*53.1%\*\*となっています。<sup>8</sup>
- 生成 AI の導入目的としては、「業務効率化／コスト削減」が最も多く挙げられています。<sup>9</sup>
- 生成 AI の利用用途としては、「情報収集」が\*\*59.9%\*\*でトップです。<sup>3</sup>
- 具体的な活用事例としては、資料等の要約や調査およびデータの収集などが挙げられます。<sup>6</sup>

## 生成 AI 導入の課題

生成 AI の導入には、様々な課題が伴います。

- 生成 AI 導入の課題として、「AI 運用の人材・ノウハウ不足」が\*\*54.1%\*\*で最も多く挙げられています。<sup>3</sup>
- その他、「情報の正確性」、「活用すべき業務が不明確」といった課題も挙げられています。<sup>3</sup>
- 生成 AI の使用においては、「社内の機密情報（個人情報含む）を生成 AI の学習データとして使用し、情報漏洩することや、「生成 AI が出力した偽情報を従業員が信じ業務で使用する」ことが懸念されています。<sup>10</sup>

## 調査結果の詳細

### 日本の市場調査会社やコンサルティング会社が発表している最新の調査レポート

#### 帝国データバンク

帝国データバンクは、2024 年 6 月 14 日から 7 月 5 日にかけて、生成 AI の活用状況に関する調査を実施しました。有効回答企業数は 4,705 社です。<sup>3</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 生成 AI の活用状況：全体で **17.3%**。業態別ではサービス業が最も活用しており、建設・不動産業が低い活用度合いです。従業員数、売上高で見ると、最も大きいセグメントで普及しているものの、中規模のセグメント（従業員 50～1,000 人、売上高 1～100 億円）の活用度合いは低いです。
- 活用用途：「情報収集」が**\*\*59.9%\*\***でトップ。
- 推進体制：内製企業が多くを占めますが、大手企業になるほど外注比率が向上するそうです。
- 懸念や課題：「AI 運用の人材・ノウハウ不足」が**\*\*54.1%\*\***で最も多い。

### 株式会社リブ・コンサルティング

株式会社リブ・コンサルティングは、年間売上高 1,000 億円以上の企業の課長職以上を対象に、「生成 AI に関する実態調査」を実施しました。<sup>6</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 生成 AI の日常利用：**42%**。部門別では、人事部門（76%）、システム部門（63%）、企画部門（53%）、経営層（50%）の順に利用率が高くなっています。業界別では、IT・通信・メディア（57%）、商社（50%）で利用率が高くなっています。
- 生成 AI 活用による成果：**\*\*84%\*\***が自身の業務にプラスの影響を与えると回答。
- 生成 AI 導入のハードル：「使用方法のノウハウが不足している」が **43%**。

同社は、中堅・中小企業を対象とした調査も実施しています。<sup>7</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 生成 AI の日常利用：**2 割以下**。
- 生成 AI の利用が進んでいる領域：営業関連、経営企画/事業企画関連、経営管理関連、マーケティング関連。
- 生成 AI 導入のハードル：「必要と認識しておらず導入検討を行っていない」が最も多い。
- バックオフィス領域での活用は進んでいない。<sup>11</sup>

### デロイト トーマツ コンサルティング合同会社

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社は、従業員数 1 万人以上の大企業 500 社を対象に、生成 AI の導入・活用状況に関する調査を実施しました。<sup>2</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 生成 AI 導入の有益性：**\*\*94.3%\*\***が有益と考えている。
- 生成 AI の導入状況：**\*\*87.6%\*\***が既に導入済み。
- 生成 AI の導入目的：「業務効率化」が圧倒的に多い。経営層に近づくほど「イノベーションの加速」を目的とする割合も増える。
- 生成 AI サービスの自社開発：**約 6 割**の企業が自社開発に踏み出している。
- 人員配置転換：**約 3 割**の企業が生成 AI 登場に伴い人員配置転換を実施している。

## 経済産業省や総務省など、政府機関が発表している統計データや調査結果 総務省

総務省は、2024年版「情報通信白書」の中で、個人・企業の生成AIの利活用について、国内外を比較した調査結果を発表しました。<sup>12</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 個人の生成AI利用率：日本は**\*\*9.1%\*\***にとどまり、中国（56.3%）、米国（46.3%）、ドイツ（34.6%）と比較して低い。
- 企業の生成AI利用率：日本の生成AIを業務で利用している割合は**\*\*46.8%\*\***で、中国（84.4%）、米国（84.7%）、ドイツ（72.7%）に比べて低い。
- 生成AI活用方針：「積極的に活用する方針」と回答した日本の企業は**\*\*15.7%\*\***と、中国（71.2%）と比較して低い。
- 生成AI活用に対する理解：経営者と一般社員の間で、生成AIの活用に対する理解に大きなギャップがある。<sup>3</sup>

## 日本経済新聞、日経BP、東洋経済などの経済誌やIT専門誌の記事

### JIPDEC と ITR

JIPDEC と ITR は、国内企業 983 社の IT 戦略策定・情報セキュリティ施策の従事者を対象とした「企業 IT 利活用動向調査 2024」の結果を発表しました。<sup>13</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 生成AIの使用状況：「会社で構築・契約した生成AIを使用している」が **15.9%**、「各自で契約・登録した生成AIを使用している」が **19.1%**。

### ICT 総研

ICT 総研は、従業員規模別に生成AIの導入・利用率を比較した調査結果を発表しました。<sup>14</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 従業員規模が大きいほど導入・利用が進んでいる。
- 全社で導入している企業の割合は、従業員数が 1,000 人以上の企業とそれ以外で倍以上の差が見られる。
- 業種別にみると、情報通信業や金融業、保険業で導入・利用が進んでいる一方、卸売業、小売業や各種サービス業では 10%前後となっており、業種によってかなりの差が見られる。

### テックタッチ

テックタッチは、生成AIを活用している大企業の会社員を対象に調査を実施しました。<sup>15</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 生成 AI の使用頻度：「週に数回使用している」が最多。一方で、「月に数回使用している」や「ほとんど使用していない」をあわせると 4 割以上になる。
- 生成 AI を使わない理由：「業務で必要なケースがない」が半数以上。他に「利用用途がわからない」「セキュリティ上の懸念がある」という回答があった。

## 生成 AI を開発・提供している企業のウェブサイトやブログで、市場動向に関する情報

### 富士キメラ総研

富士キメラ総研は、「2025 生成 AI/LLM で飛躍する AI 市場総調査」の中で、生成 AI 関連の国内市場を調査した結果を発表しました。<sup>16</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 2024 年度の生成 AI 市場は前年度比 3.0 倍の **4,291 億円**が見込まれる。
- 今後は、生成 AI の採用が増加し従来 AI との併用・連携が進むことで、市場拡大が予想される。

### AI-MARKET.JP

AI-MARKET.JP は、生成 AI の市場規模が拡大する背景について解説しています。<sup>1</sup>

主な背景は以下の通りです。

- 技術の進化速度が非常に速い
- あらゆる産業に影響を与えている
- アクセスの民主化
- 継続的な投資と研究開発の加速
- 政府による支援

### メタバース総研

メタバース総研は、JEITA（電子情報技術産業協会）の算定を引用し、生成 AI 市場の需要額見通しについて解説しています。<sup>17</sup>

- 国内市場：2023 年時点で 1,188 億円。2030 年には約 15 倍となる 1 兆 7,774 億円に達すると予想されている。
- 世界市場：2023 年時点で 106 億ドル（約 1 兆 5,000 億円）。2030 年には 2,110 億ドル（約 31 兆円）に達すると予想されている。

### 公正取引委員会

公正取引委員会は、「生成 AI に関する競争政策上の論点」という報告書の中で、生成 AI 市場の動向について解説しています。<sup>18</sup>

- 生成 AI 市場は、年率 42%のペースで拡大し、2032 年までに売上高ベースで 1 兆 3,000 億ドル規模に達すると見込まれている。

- 短期的には、インフラ（サーバ・ストレージ・IaaS）の市場が先行して拡大すると見られている。
- 中長期的には、生成 AI を利用したソフトウェアや IT サービスの市場も拡大していく見通しである。

## 業界別の生成 AI 導入事例

様々な業界で生成 AI の導入が進んでいます。具体的な事例をいくつか紹介します。<sup>17</sup>

- **パナソニックコネクト**: AI アシスタントを導入し、従業員の質問に自動応答することで、1 日 5000 回の利用を実現。
- **オムロン**: 生成 AI を活用した言語指示で動くロボットを開発。
- **セブンイレブン**: 生成 AI を活用し、商品企画の期間を 10 分の 1 に短縮。
- **パルコ**: 広告の動画・ナレーション・音楽を全て生成 AI で作成。
- **アサヒビール**: 生成 AI を活用し、従業員の社内情報検索を効率化。
- **LINE**: エンジニアが生成 AI を活用し、コーディングやテストを効率化することで、1 日 2 時間の業務効率化を実現。
- **メルカリ**: AI アシスタントが売れやすい商品名や説明文を提案。
- **学研**: 生成 AI を活用した個別アドバイスを学習者に提供。
- **大林組**: 生成 AI がスケッチを基に建物の複数のデザイン案を提案。
- **SMBC グループ**: 独自の対話 AI を開発し、従業員の生産性向上に活用。

## 学術機関や研究機関が発表している論文やレポート

### 経済産業研究所（RIETI）

経済産業研究所（RIETI）は、生成 AI 導入の全体的な導入率に関する調査結果を発表しました。<sup>19</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 生成 AI 導入の全体的な導入率：約 55%。
- 今後活用しようとしている場合を含めると\*\*92%\*\*の企業が生成 AI を活用する予定。

### 日本銀行

日本銀行は、金融機関における生成 AI の利用状況に関するアンケート調査の結果を発表しました。<sup>9</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 生成 AI の利用状況：約 3 割の先が既に利用している。試行中を含めると約 6 割、試行・利用を検討している先を含めると約 8 割。

### デジタル・ディスラプション研究所

デジタル・ディスラプション研究所は、生成 AI が日本の労働市場に与える影響について分析し

たレポートを発表しました。<sup>20</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 日本の就業者の約 **80%**が何らかの形で生成 **AI** の影響を受ける可能性がある。
- 約 **40%**の就業者が仕事の半分以上を自動化できる可能性がある。
- 事務従事者や管理的職業従事者、専門的・技術的職業従事者などホワイトカラーの職種を中心に、自動化の影響を強く受けるとの結果が得られた。

## オンラインデータベースや業界団体が提供している統計データ

### 大前研一ビジネススクール

大前研一ビジネススクールは、PwC コンサルティングの調査結果を引用し、日本企業の生成 **AI** 導入状況について解説しています。<sup>5</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 2023 年秋時点の生成 **AI** 導入率：**18%**。
- 企業規模別に見ると、1 万人以上の企業では **50.0%**、1 千人未満の企業では\*\***15.7%**\*\*と、規模が大きいほど導入率が高い。
- 役職別に見ると、経営層は **36%**、管理職は **19%**、現場従業員は **13%**と、役職が高いほど導入率が高い。

### データサイエンティスト協会

データサイエンティスト協会は、生成 **AI** の利用率に関する国際比較を発表しています。<sup>21</sup>

主な調査結果は以下の通りです。

- 日本の生成 **AI** の業務利用率：**5.4%**（昨年比+1.2%）。
- アメリカの生成 **AI** の業務利用率：**27.2%**（同+11.8%）。

## ソーシャルメディアやオンラインフォーラムで、生成 **AI** の利用に関する議論

総務省が公表している情報通信白書によると、日本は生成 **AI** の利用率が他国と比べて低い水準にとどまっていることが明らかになっています。<sup>22</sup> これは、使い方に関する知識不足や、生活への必要性を感じていないこと、リスクに対する懸念などが要因として考えられます。<sup>22</sup>

## 考察

上記の調査結果を総合的に見ると、日本企業における生成 **AI** の利用は、まだ発展途上段階にあると言えます。大手企業や IT 業界を中心に導入が進んでいる一方で、中堅・中小企業や、建設業などでは導入が遅れている傾向が見られます。

生成 **AI** の導入を促進するためには、以下のような取り組みが重要となります。

- **AI人材の育成:** 生成 AI を効果的に活用するためには、AI に関する知識やスキルを持った人材が必要です。企業は、従業員への研修や、AI 人材の採用などを積極的に行う必要があります。
- **ノウハウの共有:** 生成 AI の活用事例やノウハウを共有することで、企業は、より効果的に生成 AI を導入することができます。業界団体やコンサルティング会社などが、ノウハウ共有の場を提供することが重要となります。
- **リスク対策の強化:** 生成 AI の利用には、情報漏洩や著作権侵害などのリスクが伴います。企業は、これらのリスクを理解し、適切な対策を講じる必要があります。

## 結論

生成 AI は、ビジネスシーンにおいて、業務効率化や新たなサービス創出など、様々な可能性を秘めています。日本企業は、生成 AI の導入を積極的に進めることで、競争力を強化し、ビジネスを成長させることができるでしょう。

しかし、生成 AI の導入には、AI 人材の育成やノウハウの共有、リスク対策の強化など、様々な課題があります。企業は、これらの課題を克服することで、生成 AI を効果的に活用し、そのメリットを最大限に享受することができるでしょう。

## 付録

調査主体	調査時期	調査対象	生成 AI 利用率
帝国データバンク	2024 年 7 月	企業	17.3%
総務省	2023 年	企業	9.1%
PwC コンサルティング	2023 年秋	企業	73%
株式会社リブ・コンサルティング	2024 年	年間売上高 1,000 億円以上の企業	42%
株式会社リブ・コ	2024 年	中堅・中小企業	2 割以下

ンサルティング			
JIPDEC と ITR	2024 年	国内企業 983 社	35.0%
経済産業研究所 (RIETI)	-	企業	55%
日本銀行	-	金融機関	約 3 割
大前研一ビジネス スクール	-	企業	18%
データサイエンテ ィスト協会	-	企業	5.4%

## 引用文献

1. 生成 AI (ジェネレーティブ AI) の市場規模完全解説！世界・国内の市場市場規模は？現状から変化が見込まれる業界別の未来予測まで - AI Market, 3 月 4, 2025 にアクセス、 <https://ai-market.jp/howto/market-size-generative-ai/>
2. デロイト トーマツ、プライム上場企業における生成 AI 活用の意識調査～社内の利用割合が高いほど成果を感じる - Deloitte, 3 月 4, 2025 にアクセス、 <https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/about-deloitte/articles/news-releases/nr20240530.html>
3. 生成 AI の活用状況調査—日本企業の生成 AI 活用率は 17.3% - 株式会社 ProFab, 3 月 4, 2025 にアクセス、 <https://profab.co.jp/tekoku-databank-ai-survey-2408/>
4. 総務省 2024 年版「情報通信白書」より、生成 AI 利活用の現状と潜在的な可能性が明らかに、3 月 4, 2025 にアクセス、 [https://ledge.ai/articles/mic\\_2024\\_white\\_paper\\_on\\_Information\\_and\\_communications](https://ledge.ai/articles/mic_2024_white_paper_on_Information_and_communications)
5. 【データから読み解く】日本企業の生成 AI 活用状況 | オンライン MBA なら『ビジネス・ブレイクスルー大学大学院』, 3 月 4, 2025 にアクセス、 <https://www.ohmae.ac.jp/mbaswitch/generative-ai-japan>
6. 【生成 AI 実態調査】企業における生成 AI の日常利用の割合は 42%。すでに生成 AI を活用している層は 84%が成果を実感。 | 株式会社リブ・コンサルティングのプレスリリース - PR TIMES, 3 月 4, 2025 にアクセス、 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000187.000042601.html>
7. 【生成 AI 実態調査】中堅・中小企業における生成 AI の日常利用の割合は 2 割以下にとどまる結果に。一方で利用層の 9 割以上が自分の業務に対してプラスの影響を実感。 | 株式会社リブ・コンサルティングのプレスリリース - PR TIMES, 3 月 4, 2025 にアクセス、 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000188.000042601.html>
8. 企業の生成 AI 活用状況まとめ。国内の現状は？ - SELF 株式会社, 3 月 4, 2025 にアクセス、 <https://self.systems/laboratory-generative-ai-utilization-status/>
9. 金融機関における生成 AI の利用状況とリスク管理—アンケート調査結果から - 日本銀行, 3 月 4, 2025 にアクセス、 <https://www.boj.or.jp/research/brp/fsr/fsrb241021.htm>

10. 業務で使う生成 AI、国内企業の契約率は 16%、個人での契約は 19%。懸念点は情報漏洩や偽情報。JIPDEC と ITR の調査結果 - Publickey, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
<https://www.publickey1.jp/blog/24/ai1619jipdecitr.html>
11. 2024 年度 生成 AI サービス利用動向に関する調査 - ICT 総研, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
<https://ictr.co.jp/report/20240830.html/>
12. 生成 AI 利活用について国内外で総務省が調査。日本での利用率は 9%と消極的な結果に, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
[https://aismiley.co.jp/ai\\_news/soumu-survey-on-generative-ai-utilization/](https://aismiley.co.jp/ai_news/soumu-survey-on-generative-ai-utilization/)
13. 企業の生成 AI 利用は 35%の結果に。企業 IT 利活用動向調査 2024」の結果を発表 - Alsmiley, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
[https://aismiley.co.jp/ai\\_news/jipdec-itr-survey2024-release/](https://aismiley.co.jp/ai_news/jipdec-itr-survey2024-release/)
14. 【報道発表】企業における生成 AI 活用の格差浮き彫りに - 規模別・業種別の利用状況・課題と今後の展望 - | 情報通信総合研究所:ICR, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
<https://www.icr.co.jp/publicity/5135.html>
15. 「生成 AI を活用できている」と回答は大企業の 1 割に留まる テックタッチ調査 - EnterpriseZine, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
<https://enterprisezine.jp/news/detail/20028>
16. 生成 AI 関連の国内市場を調査 | プレスリリース | 富士経済グループ, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
<https://www.fuji-keizai.co.jp/press/detail.html?cid=24114>
17. 【2024 年】国内外の生成 AI 動向まとめ | 市場規模や展望も紹介 - メタバース総研, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
[https://metaversesouken.com/ai/generative\\_ai/trend/](https://metaversesouken.com/ai/generative_ai/trend/)
18. ～生成 AI の動向に関する調査～ - 公正取引委員会, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
<https://www.jftc.go.jp/dk/digital/itaku.pdf>
19. 日本企業の AI とデータ活用の実態： - 経済産業研究所, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
<https://www.rieti.go.jp/jp/publications/pdp/24p010.pdf>
20. 生成 AI が日本の労働市場に与える影響② - 大和総研, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
[https://www.dir.co.jp/report/research/economics/japan/20231211\\_024139.pdf](https://www.dir.co.jp/report/research/economics/japan/20231211_024139.pdf)
21. 5.4% (昨年比+1.2%)、アメリカ：27.2% (同+11.8%) - 生成 AI の利用率 - データサイエンティスト協会, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
<https://www.datascientist.or.jp/dssjournal/dssjournal-3641/>
22. デジタルテクノロジーの浸透 - 総務省, 3 月 4, 2025 にアクセス、  
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/pdf/n1510000.pdf>